

らよいか？

温暖化に興味のない人に情報を届けるには？

このグループでは、普段、温暖化防止の啓発を行っておられる方が多く集まっておられました。活動の中で「温暖化に興味のない人に、どのようにして情報を届けたらよいのだろうか。」という困りごとを少なからず抱えています。そこで、みなさんのアイデアを出し合いました。

- テレビ、インターネット、広報、組回覧…。いろんなメディアに出してみても、興味のある人は目には留まるが、興味のない人には見てもらえないなあ。
- やっぱり小さいころから、学校の中で、生活の中で、教育という部分は重要だなあ。
- 知ってもらおうきっかけとして「検針票」やエネルギー料金の請求書にCO₂排出量を記載してもらおうとか。目標値も書ければ、なお良いのだが。
- 家電量販店で啓発をするとか。
- こんな暮らし方がカッコいい！！を『おおつスタイル』として発信しては。
- 町家カッコいい！とか『カッコイイビジョン』の策定。
- ヒートショックなどの健康分野や、農林祭などの農林業分野など、温暖化分野ではないイベントやセミナーなどで啓発して新規顧客の開拓。

みなさんの活動の中にも、きっと一緒にできることがあるのでは？？いろんな活動がつながって、まさに「三方よし」、それぞれの活動も社会も良くなっていけばよいなあ。何かご一緒させてもらえる機会があれば、お気軽に大津市地球温暖化防止活動推進センターにお声かけください！

SDGsで持続可能な事業・活動を目指そう！ ～誰一人取り残さない社会をつくるために～

滋賀県はSDGsに関心の高い県といわれています。国連が定めるSDGs「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の17目標の実現を目指し、市民活動や事業活動を通じて、よりよい環境・社会・経済づくりに活かすために学びます。

日時 平成31年3月13日(水) 13:30~16:00

場所 コラボしが21(3階) 中会議室1

**参加費無料
30名様**
(申込多数の場合は抽選)

講演(1) 大津市政策調整部企画調整課主査 中谷 祐士 氏

「大津市におけるSDGsの取り組み」

(2) 滋賀銀行総合企画部広報室長・CSR室長 嶋崎 良伸 氏

「滋賀銀行のSDGsの取り組み」

* 滋賀銀行はこの度、ジャパンSDGsアワード(第2回)特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞されました。

活動発表 「株式会社ヨシダヤのSDGs活動への決意について」 社長 吉田 近博 氏

お申込み: 3月8日(金)までに、電話またはFAX、Eメール(「SDGs」希望、氏名(ふりがな)、住所、電話番号を書いて)で、大津市地球温暖化防止活動推進センターへ

Tel: 077-526-7545 Fax: 077-526-7581 E-mail: info@otsu.ondanka.net

SDGs (Sustainable Development Goals) とは: 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

大津市地球温暖化防止活動推進センター (特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム)
〒520-0047 大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津4F Tel: 077-526-7545 Fax: 077-526-7581
E-mail: info@otsu.ondanka.net HP: http://otsu.ondanka.net/ 編集責任: 森口 行雄



11/3、環境情報合同交流会

大津市地球温暖化防止活動推進センター情報誌

センター通信

No.11

2019年1月10日発行

環境情報合同交流会2018 基調講演「SDGsの視点で環境を考える」要旨

SDGsは「誰も置き去りにしない」

滋賀県にはSDGsに関心のある方が多いようですが、今日は「SDGsの視点で環境を考える」というテーマなので、初めに少しSDGsそのものについてお話しします。

SDGsは、2015年9月に国連のすべての加盟国で採択されました。これは重要なポイントです。そして2030年に向かって我々の世界を持続可能な開発、持続可能な社会に変えていく、これがもう一つの重要なポイントです。しかも「誰も置き去りにしない」という大変な取り組みだと思えます。その内容は、環境、経済、社会の三つともが良い方向に向かっていくことを目指すものです。

ところで、現在の社会はどうでしょうか。果たして良い方向に向かっていくといえるでしょうか。

温暖化は人間が起こした事態

まず、地球温暖化。「人類は歴史的な境界を越え新たな危険領域に突入した」と条約の事務局長が発言しています。昨年今年と、日本各地で起きた豪雨洪水。そして台風。1997年京都で開催されたCOP3の頃は、日本ではまだ異常気象の実感はありませんでした。いまはどこへ行っても「温暖化ですよね」といわれます。

生物にとって現代は第6の絶滅の時代といわれます。これまでの5回が自然現象による事態であったのに対して、今回の原因は人間が起こした事態というのが全く異なります。温暖化に、化学物質に、無謀な開発が重なって、人間が生物のすむ環境をどんどん変えていってしまっている、ということなのです。

WWF(世界自然保護基金)によれば1970~2012年の間に魚類などの海洋生物の生息数が49%減少している。約半分になったということです。陸地でも食用油原料のパーム椰子の栽培のため、自然を破壊しながら熱帯雨林が切り拓かれていく。食品が食べずに捨てられている他方で、飢えに苦しんでいる国もあります。現代も食料の絶対量不足ではなく社会的不平等の結果なのです。ただ気候変動がすすむと絶対量不足の恐れが出てきます。日本は水の豊かな国ですが、将来、雨の降り方が極端に変わると日本でも水不足が起こるかも知れません。

世界を見ると学校に行けず働いている児童が1億5,200万人もいる。農業を使うコットンの栽培でも多くの児童労働が見られ子どもたちが危険にさらされています。一方で、多量のファストファッションが着ずに捨てられています。お話ししたのは一例ですが、世界は今、このような状態なのです。

日本では1億円以上の金融資産を持つ人の数が増えていますが、逆にワーキングプアといわれる年収200万円以下の人も増えており、子どもの7人に一人が相対的貧困という状態で、格差が拡大しています。これでは社会が進歩したとはいえません。

持続可能な社会、開発になっているとはいえない。環境や経済も危なっかしい。子どもや孫に安心した社会は贈れないかも知れない。SDGsはちょっと変えようというのではありません。根本的に大変革をしなければならない。SDGsはすごいことを目指しているのです。具体的にSDGsには、17の課題(ゴール)と169の目標(ターゲット)が掲げられており、経済と社会と環境と一緒に考えながら進めていく、そして世界のいろいろな分野の人たちが参加しています。

SDGsの展開にはパートナーシップが大切

SDGsではアルファベットのPが特徴的に使われています。次の5つの要素です。People(人間)、Planet(地球)、Prosperity(繁栄)そしてPeace(平和)です。そしてこれらをPartnership(パートナーシップ)で実現しようという大事なことを目指しています。SDGsの17のマークは言葉が違っていても何を狙っているのかが分かる世界言語といわれています。SDGsは環境問題と様々な社会問題を結びつける役割を担います。私が代表を務めている団体『環境市民』では活動の一つとして、多様な専門性(活動領域)と地域性のある活動とを結びつけ



認定NPO法人環境市民 代表 萩原 啓生 氏